分科会報告

広陵町「福祉・医療分科会」

山村　吉由　広陵町長

8月29日に、奈良県広陵町において、3市3町1村と奈良県の参加のもと、本町の健康増進計画等に関わっていただいている天理大学の近藤雄二先生をコーディネーターに、介護予防や健康づくり等にご協力をいただいている地元の畿央大学の高取克彦教授、文鐘聲准教授、松本大輔准教授を講師にお招きして、「福祉・医療分科会」を開催した。

本町では、暮らすことで「健幸」になれる町、ふれあい・交流が進むまちづくりを意識している。緑多い住宅地として若い世代の転入が多い本町でも高齢化は進んでおり、そのような中で、行政や地域住民、関係団体が協働し、様々な地域課題に町全体で取り組む地域福祉活動が不可欠だと考えている。

分科会では、本町及び畿央大学より、①健康づくりのための取り組みとして、地域巡回型健康教室「広陵町元気塾」の活動について、②住民の自助・互助の力を活性化させる取り組みとして、介護予防リーダー「KEEP」の養成について、③畿央大学が行う効果的な地域包括ケア構築の基盤を形成する事業として、「KAGUYAプロジェクト」について発表を行い、参加地方政府と意見交換を実施した。

続いて、参加地方政府から、住民運営の通いの場づくりや、支え合い・助け合いの育み、健康ステーションの整備等の事例発表があり、地域で支える取り組みについて情報共有を行った。

最後に、コーディネーターの近藤先生より、「地方政府の取り組みは、医療・福祉施設の整備やその支援から一歩進んで、住民をいかにその気にさせるかが大きな課題となっている。そのための一つの核となるのが、ソーシャル・キャピタル、いわゆる地域の人と人とのつながりの創出である。この分科会では、地域資源を活用した成功事例が報告され、様々な新たな試みを地方政府が行えるということを示す有意義な分科会となった。中国や韓国でも少子化高齢化・核家族化が進む中、本日の成果を、ぜひ全体会合の議論につなげていただきたい」と総括いただいた。

開催概要

- **日　　時**　2019年8月29日（木）
- **主　　催**　広陵町（共催　奈良県、協力　畿央大学）
- **場　　所**　広陵町総合保健福祉会館さわやかホール
- **参 加 者**　奈良市、天理市、御所市、三宅町、明日香村、下市町、広陵町、奈良県
- **ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ**　近藤　雄二　氏（天理大学　非常勤講師）
- **講　　師**　高取　克彦　氏（畿央大学　教授）、文　鐘聲　氏（同　准教授）、松本　大輔　氏（同　准教授）